

Since 1976

横浜市立元石川小学校

令和5年8月31日



学校だより

9月号

HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motoishikawa/>

横浜市青葉区美しが丘4-31-1
TEL 045(902)1821

多くの支えを大きな輝きに

校長 野間 義晴

はまなしやはまぶどうといった季節の果物を目にするようになり、少しずつですが、季節の移り変わりを感じます。

「38」、この数字は夏休み前の朝会で、今年の夏休みの日数の話をしたときに使った数字です。一人一人、みんながちょっとずつ成長したら、元石川小学校全体では物すごい成長になると話したとおり、休み明け、一段と成長した子どもたちの姿にとてもうれしくなりました。

高校野球の熱戦が続いた阪神甲子園球場では、グラウンド整備と、芝刈りは毎日することによって、毎日同じ条件にしているそうです。そのためには、芝を刈った後に水やりをするなど、多くの時間がかかるそうです。甲子園と同じように49の地方大会も同じようにたくさんの方に支えられ、全国の頂点を決める戦いが成り立っているのです。本校でも、花火大会をはじめ、おやじの会やはぐくみの会、学援隊など家庭や地域でお支え頂きましたこと感謝申し上げます。



夏休み中も学校で育てている稲の世話に学校に来た子もいました。8月末には、「だれもが安心して生活できるよう、いじめ問題に向き合い、自ら解決しようとする子ども社会」を目指し、市内各中学校ブロックで代表児童生徒が話し合いました。誰もが安心して生活できるように、居心地のよい学校づくりに向けて教職員も様々な研修や研究を重ねています。

この夏休み、努力したこと、本気で取り組んだこと、やり遂げたこと、いろいろあることと思います。夏休みだからこその貴重な体験は、自分の興味・関心の高いことを探究したり、休み明け以降も子ども自らが問いをたてて意欲的に学んだりすることにつながります。

ここ数年の間に、世界中で気候変動が叫ばれ、異常気象に翻弄され大きな被害が報道されています。心よりお見舞い申し上げます。激変し続ける時代を生き抜かなければならない子どもたちには、どんなに想定外の状況に直面しても怯むことなく、自分の頭で考え、相手にとっても自分にとっても最適な道を、力を合わせて未来を切り拓いていくことが求められます。そのためには、子どもが主体的に物事を考えたり、能動的に行動を起こしたりする場面や、心を開き合って仲間と深くかかわり合う場面を、学びの中で展開していかなければならないと考えます。それがとりもなおさず学習指導要領でいう「主体的・対話的で、深い学び」につながるのです。

夏休み中、それぞれに貴重な体験をした元石川の子。夏休みの思い出を糧に、夏休み後も「高め合おう つながろう 未来をつくる元石川の子」に向けて大きな輝きを見せてくれることを期待しています。